

洋書輸入協会会報

VOL. 5
NO. 7

(通巻51号) 昭和46年7月

理事会報告

6月11日(金)

東西合同懇親旅行途中にて。

(一) ドイツ・マルク問題情勢検討。

(二) Chemical Abstract の値上げ問題。(山川氏)

(三) 米国郵便料の値上げの情報について。

通関委員会にて調査することとする。

6月28日(月)

(一) 入会申込みに関する審議。

株式会社 信 山 社

紹介者 丸善、紀伊國屋書店

……検討の結果承認。

(二) その他、入会希望者についての検討。

(三) 準会員乃至は賛助会員制度に関する提案(一條氏)

外国出版社代表、洋書輸入を手掛けてはいるが量の少ない所、洋書販売を業としているが輸入をやっていない所、洋書輸入を始めたが未だ歴史の浅い所等、洋書輸入協会の関連業者ではあるが協会加入を躊躇しておられるような会社を広く包括するためには、賛助会員乃至は準会員制度を設けるのが適当ではなかろうか。

……総務委員会に検討を依頼する。

(四) 関西支部事務局員に中野圭子さんが新たに採用された旨報告。

(㉔) 4月分及び5月分の収支計算・予算対比表の検討。

……承認。

(㉕) 藍沢ビル従業員に対する夏季こころづけの件。

……承認。

(㉖) 海賊版の件検討。(柴田氏)

(㉗) 通関委員会より。(柴田氏)

(1) 東京税関東京外郵出張所及び羽田外郵出張所の人事異動の件報告。

(2) 外国郵便料金変更の件報告。

(3) 米国の港湾ストの件。

西海岸は7月1日より、東海岸は10月より突入の公算大。

(4) 磁気テープ通関の件。

3月に大蔵省に対し、無条件免税の陳情を行ったが、その後の経過と、才二回目の陳情結果の報告。

更に才3回目の陳情を行う予定。

(㉘) 渉外委員会より。(山川氏)

C. A. S. に対する支払い方法について交渉中。

(㉙) ドイツ・マルク問題情勢検討。

(㉚) 洋書交換委員会報告。(服部氏)

合同セールに関してカタログ掲載料を若干値上げし、出品料金を若干値上げた。

通関委員会だより

東京税関東京出張所に次の方々が新任されましたのでお知らせいたします。

管 理 課 長

山 崎 五 郎 氏

統 括 審 査 官

輸出通関部門担当

柏 山 治 弥 氏

統 括 審 査 官

輸入通関才二部門担当

名 取 肇 氏

関 税 弘 報 官

根 本 春 吉 氏

なほ統括審査官植田栄一氏は引続き輸入通関才一部門を担当されます。

文化厚生委員会だより

輸入協会第四回春期囲碁大会について

洋書輸入協会文化厚生委員会囲碁部は、6月26～27日委員長渡辺正広、会長石内茂吉、専門棋士石毛喜久夫八段以下15社代表19名、新緑の箱根桜溪荘に於て、才四回春期囲碁大会を盛大に催しました。

同業者の集りとしては、かくも楽しく、和気あいあいと車中でも一戦、熱い人は暁の4時までも囲碁三昧にひたあい、友好的な雰囲気での催してあった事に大きな喜びを感じました。

大会の成績は次の通り。

(A) 1位 大野 富 積 (海外出版)

2位 平 尾 幸 豊 (明倫館)

3位 前 橋 康 弘 (中央洋書)

(B) 1位 溝 口 憲 雄 (伸興通商)

2位 渡 辺 正 広 (日本洋書販売)

3位 村 山 新 吾 (ゲーテ書房)

4位 鈴 木 和 夫 (メクレンブルグ)

上記に名前の出なかった残りの方は心から拍手を送られると同時に来春こそきっと……と思っていられるに違いありません。

幹事 原田晃真 (洋販)



雨の旅もまたよきかな

— 東西合同懇親旅行 —

重くたれこめていた空がいよいよ雨になったのは、“こだま”が静岡を過ぎた頃であつたろうか。一年ぶりの東西懇親旅行とあって、日々の仕事をはなれ久しぶりの解放感とおしゃべりに何かなうきうきしていた私たちには、さほど気にもならないことだった。

車中で昼食をすませ、米原で関西からの方たちと合流してバスに乗りこむころには、やはり予報が的中して永い梅

雨のはじまりを思わせる雨足が次々に白くなっていた。だが今年は大学紛争の憂いもなく、さし迫って困難な問題もないので、お世話役である関西方の発案で全員につけられた通し番号の胸リボンに冗談を言いあう私たちも屈託がない。

細雨にけむる醒カ井の養鱒場を相合傘でひと廻りし、再びバスで彦根城に着いたときには幸い傘もいらなくなって

いたが、天守閣から眺めた琵琶湖はまことに六月、鈍色の雲の厚みを映して静まっていた。その湖面を跨ぐ大橋を渡り、止んだかにみえては降りつづける雨に緑すでに濃い比叡山を遠く望んで、その夜11日の宿は堅田に近い湖畔雄琴温泉の国華荘だ。この温泉地では二番目ぐらいの旅館らしい。

関西、名古屋、東京からの参加人員52名、回を重ねた合同懇親旅行にすでに親しみも増して、宴会の席も気易い和やかさだ。毎年献身的に引受けてくださる大阪U Sの岡崎さんの司会で、関西支部長丹羽さんのご挨拶につづき、例年とおきの、のどにおぼえの数々が披露されて夜は更けていった。やがて華やかなピンクのライトが舞台を照らして、氷二部は夜ひらくショーの開幕……。ショーもよい、暗い湖面を見はるかすスカイ・ラウンジでグラスを傾けるのもよい。静かな夜の静かな温泉地では、麻雀の卓を囲むのもいっそ人間的だ。だが、曉方までの麻雀の激戦のあとで、早朝の湖面に釣に出られた方もあると聞いておどろいた。まさにやる気充分の頼もしきファイトであろう。

翌る12日土曜も雨。旅館前で記念撮影をして比叡山に向

うはずだったが、雲の中のドライブは諦めてもっと下界に近い東山に上る。霧雨の京都はあちこちに丈高いビルがみえて、しかもしっとりとした灰色だ。山は人かげもなく草花が濡れている。

そして苔寺の雨。木もれ日に光る苔の美しさは知っていたが、雨の中に身をおこした緑の見事さは格別だ。幾十種類かの苔が、つややかに生きている。それにまた、枯山水の岩はだのやさしいうみはどうだろう。

大徳寺での昼食は精進料理の幕の内に般若湯とビールで乾杯。午後は最後の行程で現代的建築と設備を誇る宝カ池の京都国際会館だったが、見学者だけの広い建物は生気がなくて、芝居がはねたあとの舞台の大道具さながらだ。池につづく広い庭園も、ただ雨に濡れて淋しげだ。

降られたとはいえ楽しかった二日間の旅も終って、東へ帰る人々、西に残る人々が京都駅で雨の別れを交わしたあと、東京の委員たちは帰路の車中にもう、来年の企画に新しい意欲をもやしていた。

(文化厚生 K・H)



円の切上げとデノミネーション

洋 販 渡 辺 正 広

現在日本の円が非常に強いといわれています。毎日のように新聞紙上で円の切上げについて論議が交わされています。諸外国が日本に対して円の切上げを要望しているようです。果して日本円はそんなに強いのでしょうか。もし真実なら大変結構なことです。愛国者と自他共に認められている私は嬉しくてたまりません。しかし私にはどうもその通りにはうけとれないのです。美人だ、美人だといわれるのは嬉しいものです。でも、その美しいといわれる顔が実は素顔ではなく、一生懸命つくった顔だということを私は知っているからです。ドーランを塗り、つけまつげをし、アイシャドウをほどこし、口紅を塗った顔だからです。朝起きたザンバラ髪の素顔は、実は大変なオタクなのです。円は裏にある強力なバックをたよりにした温室の中で育っている円なので、外界へ引きずりだされると、トタンにしぼんでしまう温室円なのです。

先ず、円が強いという理由の一つに日本がドルをたくさんもっているということが言われています。七十六億ドルも保有しているのではないかと諸外国がいつています。正にその通りです。日本は七十億ドルを確かにもっているでしょう。でもそれだけなのです。日本政府の保有し、発表しているものが全部なのです。青色申告の優良法人みたいなものです。ガラスばりそのものです。民間保有のドルは全然ないのです。私の家を探しても、石内さんの家を探してもありません。あったとしても、せいぜい外国旅行をして交換できない硬貨が50セントあったり、交換し忘れたードル札が一枚か二枚ある位でしょう。即ち日本のドルは政府保有のみであり民間には皆無といってよいのです。ところで、外国ではどうでしょう。フランス政府の保有しているドルは日本政府の保有しているドルより少いでしょう。しかし、民間にあるドルは恐らく政府発表の三倍以上あるのではないのでしょうか。フランス人は自国のフランが弱いことを知っています。スイス、ドイツ、どこへでも一時間で行けます。自分の財産を守るため、どこのお金を持っていたら安全であると考えましょう。それは恐らくマルクかドルでしょう。フランス人は意地でもドイツマルクをもつ

ことはしません。恐らくドルを持っているに違いありません。フランス人のタンスの中はドルでいっぱいです。政府所有ドルの何倍をも民間が保有しているのです。イタリアも然りでしょう。之を要するに、私の言いたいのは、日本の保有ドルが多いといわれていますが、実際はたいしたことがないということです。日本の所有が二百億ドル位になって始めて、日本の保有量が多いといわれるのではないでしょう。

次に日本は外国での蓄積が殆んどないという事実です。之は大東亜戦で、日本が負けたため、外国で保有していた日本の資産権益はあらいだらいとられてしまったからです。ニースに別荘はおろかハワイ、グアムにもありません。朝鮮台湾満州にあった日本の財産は全部なくなりました。日本の財産はこの小さな四つの島に限定されてしまいました。別荘どころか家屋敷も手放して、四畳半の長屋住いというわけです。四畳半に暮してお金持お金持といわれるのは誠にくすぐったいものです。

又、日本国はほんとうに輸出超過で黒字の国なのでしょう。私は之も否定的にならざるを得ません。現在黒字であることは事実です。世界どこへ行っても、ホンダがありソニーがあります。時計はセイコーです。あらゆる日本商品は世界各地に氾濫しています。その通りです。が、之は非常に強い輸入統制の下に行われているのです。自動車、機械類はもとより、誠につまらないグレープフルーツなんという果物でさえ、やっと本日から自由に輸入されるのが事実ではありませんか。私達洋書輸入業者からいわせれば、輸入した書籍の返品すら認められていないのです。又、自由に送金することもできません。せめて少額のもの位小切手で自由に送金できるようになりたいものです。即ち日本は貿易の自由化すら完全にできないのです。まして為替の自由化、資本の自由化などできる力は全くありません。日本経済は温室の中で、人工空気によってスクスク育てられている熱帯性植物なのです。ほんとうの風にあてられ、雨にさらされたら一ぺんにシボンでしまう極めてひよわな植物なのです。マッカーサー元師のいわれた表現を拝

借すれば日本経済は正に十二才なのです。大学生のおやりになる円の切り上げなど、おこがましい限りでしょう。小学生は小学生らしくしなければなりません。

日本が先ずすることは完全な輸入統制の撤廃です。そして外国商品をドンドン輸入させ、国産品と堂々と競争させることです。あらゆる外国製品より、日本のものがよい、すぐれているということになって、始めて日本の経済がほんとうに強いと言うことができるのです。温室経済、竹馬経済ではいけません。そして、それでも輸出が多くて輸入が少い真の黒字国になれば次の段階に進んでよいでしょう。即ち、貿易の自由化の次に為替の自由化、資本の自由化、外国の投資の自由化と進むべきです。又、円を真の国際通貨とすべきです。円が世界のどこの国でも取引対象となって始めて、円の切り上げを考えるべきです。それより前に社会資本も、もう少し充実してほしいし、下水設備もなんとかしてほしいものです。

次の問題として、円の切上げと同時にデノミネーションが行われるのではないかと言われています。デノミネーションとは通貨呼称の変更ということです。現在あまりにも円の単位が大きすぎるといわれます。月給が何万円とか、土地が何百万円であるとか、どうも少し円の〇の数が多いすぎます。そこで100円を新円1円にしようということです。即ち或る日から現在の100円を新円1円にするのです。そしてすべての物価を全部 $\frac{1}{100}$ に切下げることです。論者はデノミネーションは単に100円を1円にするだけだから、決して通貨の切下げではない。全く同じでたゞすべてのものが $\frac{1}{100}$ になるだけだと言います。私はこの考え方に賛成しません。なるほど理論としてはおっしゃる通りです。全部 $\frac{1}{100}$ にすればよいのですから、ところが私達が人間である以上、そこに感情があります。一生懸命貯めた貴重な百万円が或る日突然一万円になったらどうしょう。平気でしょうか。がっかりします。今迄五万円の月給を貰っていた人が、月給袋をあけたら500円札一札しか入っていなかったらどうでしょう。淋しい気持ちがします。理屈ではわかっていてもしっくりしないのです。それと同時に、必ずすべてのものが $\frac{1}{100}$ になるかどうかわかりません。 $\frac{1}{90}$ 位の価格にごまかす人が必ずいるものです。そこでそれは通貨に対する不安感になり、不信感となります。之がインフレーションを起す遠因となります。そこで私は再び声を大にして「両」の復活を主張します。それは政府がただ単に「今後100円は「一両」と呼称す。」と言えはよいのです。一万円札を刷るのを止めて100両札を刷れば

よいのです。もし百円を新円一円に換えるのなら私達本屋は店の全部の本の正札を一つ一つ書き換えなければなりません。之は大変なことです。私達本屋ばかりではありません。日本中の人々がすべての商品の正札を書き換えなければなりません。銀行も会社の会計部も大汗です。この無駄な費用は大変なものでしょう。八幡製鉄と富士製鉄が合併するのでも何億とかかったそうです。もしデノミネーションをすれば恐らく何兆円もかかるでしょう。その上一万円札を新円百円札に、千円札を新円十円札に換えなければなりません。これを刷るのが大変です。又、新たに50銭、10銭、5銭、1銭の硬貨もつくらなければなりません。全く無駄なことです。百円を一両と呼ぶことにすれば、一円もかかりません、新しい製品に両の正札をつければそれだけでよいのです。又、引続き円でよびたい人は円といっても一向かまわないのです。百万円でも一百両でもよいのです。新たに百両札等をつくって旧一万円札を除々に回収するだけでよいのです。

以上円の切上げとデノミネーションについて私見を述べて見ました。然し根本問題として、日本人は日本の経済を現実的に冷静に分析しなければいけません。今、私達は少し日本びいきの外人さんの意見に有頂天になり過ぎているようです。

Herman KahnやPeter Druckerの日本経済礼讃のことばのみに酔ってばかりいないで、Arvin Tofflerの苦言もよく聞いて下さい。

彼はその著者、Future Shock（未来の衝撃……実業の日本社刊、徳山二郎訳）の中で次のように言っています。

「日本経済は強力なジェット・エンジンに似ている。エンジンを酷使すると、飛行機の機体を危険な状態にさらしはじめる。振動はひどい破壊的な力となり、機体の接合部分をこわし、ばらばらにしかねない。」

「この、「未来の衝撃」は、これまでの日本経済の類いまれな成長も、従来からある経済的問題を解決できないために停滞してしまうのではなく、むしろこの急速な変化に各個人や社会が適応できないという体質的な限界のために大きな音をたててきしみながら、突然止まってしまうような懸念があることを、示唆しているのである。」

未来の衝撃は現代の恐怖ともいえます。日本のこの素晴らしい経済発展は明日ビタリと止まるかも知れません。円の切り上げはエンジンにとって砂になる恐れがあるということを知らなければなりません。

洋書学ことはじめ (VI)

製本のこと (1)

八 木 佐 吉

古代オリエントやギリシヤで粘土板やパピルスに文字や絵を画いて意思、情報の伝達をしていた時代はさておいて、パーチメント（羊皮紙）が作られてから、ヨーロッパ東南部や中近東方面では、記録された羊皮紙を何枚か、縦じ合せたり、つないで巻物状にしたりするようになってきたようである。同じように中国でも木簡（木札）・竹簡や布帛に文字や絵の書かれたものを、個々バラバラにして置く不便さと、散逸を防ぐために巻物にしたり、紐で綴じたり、しばったりする工夫がなされた。その後中国で紙が発明されてからは、これらの保存方法はますます仕事がし易くなって一般化したと思われる。今も使われている書物用語

巻 まいた文書

冊 簡を紐で綴じた形

はその名残りともてよい。また西洋の

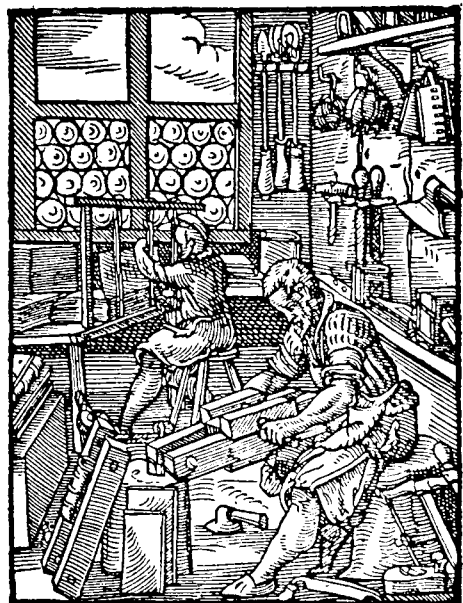
volume もラテン語の volumen 巻物の意で

同様である。記録文書や書物の紙葉がバラバラになり散じるのを防ぐ手だてと、また、順序立てて読むに便ずるために一括することが昔から工夫せられたことは既述の通りであるが、何としても古い頃は書写材料が乏しく、僅かに写本の類が一部に通用・保存されるに過ぎなかった。二世紀の初め中国で創製された紙の抄造技術が、ヨーロッパに漸次に伝わり、西洋で紙が普及してきたのは十四世紀頃からであろう。やがて木版印刷 block printing が創められて、やや書籍らしい印刷物が現われ、製本もそれ相応にこれに従った。しかし、今の本の姿とは程遠い。今日西洋各地に伝わっているものは、むしろ豪華ぜいたくで、特殊階級向きの装幀である。十五世紀の中頃ヨーロッパ大陸でグーテンベルク達に依って、新たな活版印刷の方法が発明されたことは、既に著聞することで、今更詳述する要はあるまい。だが一方、この印刷術の革命によって、紙の生産も刺激されて、紙質が改良され、量も著るしく増したわけである。印刷法の進歩と紙の増産による印行書籍の急増した態が想像される。当然それら印刷物を一括し、繙読に便ずること、つまり製本にも新たな工夫が施されてきた。ある意味でのヨーロッパ近代の製本術はこの頃から始ったといつてよいと思う。

その頃から、西洋のは両面刷りが可能な紙と、左から右へ横並び文字配列の印刷の利点を、生かした製本。日本・

中国などの固有の紙は表と裏が際立っていて、片面刷りしか施されず、縦書き文字、右から左へ行の進む書物の製本。この両型の相違は著るしい。書誌学の権威寿岳先生はその著書「書物の世界」の中で「紙が書物の形態を規定した。これには紙の性質によって、中国や朝鮮あるいは日本で発達した袋綴じ型と、西欧で発達した両面印刷型と、二つの系統が立てられる。……東洋型の背中は解放的で、特別な場合を除き、一部分にのみ製または紙片をつけて装飾と保護とを兼ねさせ、全部を蔽ってしまうことはない。しかるに西洋型のは必ず背中の全部をかくし、かつ見返しをつける。……」と書かれている。しかし、わが国の今日は、印刷・製紙工業の西欧化で、書物の世界もほとんどの書籍が洋書の外型を模したものとなっていることご承知のごとくである。

さて、ひるがえって、ヨーロッパ諸国各地に活版印刷術が伝播していった十五世紀後半から十六世紀にかけての頃には、ほとんどの印刷者（所）が出版業を兼ねていた。そして製本には充分の手を施さず、刷り本を束ねた程度で頒布者や読者の手に渡り、書物は購読者が各自に必要なに応じて、新たに綴じ合わせたと思われる。こうしたことは、



十六世紀ごろの製本師

必然的に専業の製本師が、ヨーロッパ各地、特に印刷業が盛んな土地に定着していく因となった。製本用の表紙材料も、それまでの木板や粗悪な皮から一段の進歩をとげてほとんどが、軽しのよい革に、箔押しした文字や模様をもつように美しくなっていく。フランスの愛書家グロリエ(Jean Grolier 1479—1565)が、その自家独特の美しい製本を工夫して、後世に「グロリエ調装幀」の趣味を遺してくれたのも、この時代に胚胎するのである。また、有名なニュールンブルクのヨースト・アマン(Jost Amman, 1539—1591)の1568年版「職人づくし」絵詩本には、製本師が登場していて、部厚な革装の本を造っている図があり、十六世紀中期ヨーロッパの製本工房の様子を見せてくれる。(挿絵参照)

さて、西欧の製本発達史を書くつもりではないので、筆をとばす。本の表紙材料として、皮革、紙、貼り合わせた厚紙類、または衣服・装飾用の布帛を用いて装幀された時代が、十九世紀前期まで続く。現今使われているような製本用のクロスが初めて製産されたのは1820年代の末頃イギリスに於いてである。それからは、いわゆる publisher's binding または edition binding と称されるような出版元によるクロス装の数物製本が一般的となってきたのであった。今日ではまた、そのクロスに代用する物、皮革に代る材料が多数生産されて、書物の装幀を多彩なものにしていることご存じの如くである。

この辺で「製本用語」にはいることとしよう。製本の種類は多岐多彩。そこに使われている言葉も頗る多様である。欧文でも邦語でも、同じ仕事に対する言葉のシノニームがたくさんある。その他にいわゆる製本師の職人言葉もある。そこまでは筆が及ばない場合もあると思う。極めて一般的の術語を並べるにすぎない。ご寛恕ねがいたい。

まず、「製本」を意味する国語から始めるが、これがややこしい。明治の文明開化の波にのって、西洋のいろいろの文物が入ってきた中で、洋式の製紙法、活版印刷、それに伴う洋書風の製本術。これをその頃は

洋本仕立、洋式製本

などといった。仕立というと衣服の裁縫のことと思うが左にあららずで製本の意でもあった。

装釘

洋式製本を「そうてい」と称えだしたのは明治の末か、大正の初年ではないであろうか。大正6年版の三省堂版の「字引き」には「装釘一よそおい釘うつこと。かざりとづること」と解釈してあって、製本のことか否やがはっきりしない程である。それが昭和年代に入ると、もうすっかり定着して、普製本のものより、装飾効果のたかい製本の意にな

ってくる。これがまた、いつの間にか、また誰が使い出したか調べてもみないが

装幀

となってしまった。釘では、仕事が乱暴にみえるので、幀の字を当てたのであろうか。

「簡野字源」には「幀タウ、えぎぬを張る。書画の一幅を一幀という」とある。ともあれ「装幀〇〇先生」などと添え書きされていると、なんとなく製本が立派に見える。文部省編「学術用語集、図書館編」(1958版)には

sōtei 装丁 binding

と記されている。日本語は複雑である。

神田錦町に池上さんという和漢書の製本師さんがいる。人間文化財のような名手である。この方の入口に

装潢師(さうくわうし)

という木札がかがけられている。表具師・経師の意もあるが、和漢書の製本も入るらしい。斯様な古い言葉をも書きそえておく。

英語で「製本師」は普通

bookbinder

というが、古い言葉では

bibliopegist

ともいう。製本術は

bibliopeggy

O. E. D. に“bookbinding as a fine art”と解説してある。

bookbinding

は製本・製本全般を意味する。

binding

この字も製本全般を意味するが、本来は本綴じ製本を指す。これは、各折帖を糸にて綴緒(コード)またはテープにかがりつけ、その綴緒等の端を表紙の芯の板紙に貫通して固定し、その作業の後に、芯材を革・クロス等の表紙材にて包む方法による製本。綴じつけ製本ともいう。

case binding

「くるみ製本」包装仕立、前の「綴じつけ」に対する仕立方の相違する対語である。この方法は表紙と中身を別々に準備仕立てて置く。見返し紙と、背貼りの布または綴緒を僅かに見返しの下に貼り込んで、仕上りとする製本方法である。頻繁に使う書物などでは、中身と表紙が離れ易い。しかし、publisher's binding はほとんどがこの仕立方である。

(次号では表紙材料名とその使い方に依る専門語を拾い上げる予定)。

社会科学と観察技術

日本シオス協会

研究調査部主任研究員

瀬 藤 嶺

モルゲンシュテルンの“On the Accuracy of Economic Observation” (Princeton University Press, 1963) は経済観察の技術と態度について実証的な立場から洞察を加えた示唆に富んだ著作として知られている。ところで今日社会科学では推測統計学や数理的接近方法の発達によって高度な分析手法が開発されつつあり、理論の検証や政策立案のツールとして大きな偉力を示している。とはいっても、こうした手法自体の高踏さ精緻さにくらべ、それから得られる成果は古代物理学におけるターレスほどの精密ささえも得ないのも事実であろう。

当然のことであるが社会科学の観察技術はその対象に固有の性格によって制約されている。とくに計量化されがたいものの観察と記述——皮肉なことだが経済学では計量手法の進歩によってその重要性がいっそう強調されるようになったのであるが——では、原点や尺度の設定、変化のベクトルを何次元にするかという基礎的な認識すら未解決である。素人の臆測で申すまいが、例えば物理学では数千年にわたる発達の過程で「量」についての明確な共通認識が得られ、それをもとに運動、変化あるいは相対的な関係の解明がなされたのではないだろうか。それに対して経済学ではベクトルの成分の概念すら定まらぬままに運動と変化の法則を探しているようなものである。いうなれば古代から中世へかけての占星術師などによる無数の観察結果もなしに万有引力の法則以上の発見をしようとしているとさえいえるのではないだろうか。経済関係の本には facts and fallacies (事実と誤謬) とか myths of economics (経済学の神話) とかこれに類するものが非常に多いのもこれと無縁ではないだろう。

例えば1950年後半までは発展途上国の経済開発問題は正統派経済学の概念と方法で扱われるべきだというのが経済

学者の常識であった。今日、正統派経済学は西欧先進国社会を主たる分析対象とした適用領域が限定されたものだという見解が支配的になっているとはいっても、今なお発展途上国の非貨幣部門に対する科学的なアプローチがなされているわけではないし、その人びとの経済行動の観察が十分になされているわけでもなく、いざんとして矛盾しあう無数の神話がまかり通っている。

また最近イギリスで科学的経営技法が実際の企業経営にどの程度適用できるのかを実証しようとする調査が行なわれた。その結果をみると、経営学ではこうあるべきだという方策を採用している企業は皮肉にも業績が悪く、経営学の理論からみてそうあってはならないことをしている企業の業績がよい。こうした例がまことに普遍的である。そこで調査に当たった経営学者自身が、従来の経営学は実学らしい装いをもっていて実はまったく実学ではなく、自己閉鎖的なワク組みの中から出てきた結論を安易に一般化し、すべてのものに適用しようとした危険な試みの代表例であると述べているのである。

これらの例はもちろんそれぞれ別個に検討するべきものであろう。しかしいづれにしる現象の観察、それから抽出される理論の適用領域という問題に反省すべき点が多いことを示していることは確かである。われわれはよく東南アジアの人びとの消費態度、貯蓄態度、利益や所得に対する考え方、労働観や価値体系をみると、既知のツールで扱えない部分があまりに多いのに当惑する。そこで感ずることはデータが極度に制約された性質をもっているというだけでなく、観察の尺度なり、われわれの馴れ親しんでいる経済量そのものの再検討が必要なのではないかなということである。これが観察技術の効能に影響を与えているのではないかと無責任な感想を持つことがある。

海外ニュース

米国東西海岸港湾ストライキについて

米国の西海岸の港湾労働者などで組織されている I L W W は、6月30日で契約切れになった労働協定の 新契約 について、船主側の団体である P M A と交渉していたが、不調に終り 7月1日より無協約状態となり、カリフォルニア、オレゴン、ワシントンの各州24港でスト突入した。

現在のところ、労使の交渉は 7月20日再開される予定であるが、過去の経験、失業不安等でそう長続きせず、7月中には解決される見通しであるという意見もあるが、しかし、今回のストの特徴として下部組合員の突き上げが激しく、又東部労組の資金援助もある模様で、かなり長期化する予想も一方にあり、現在のところ事態は流動的である。なお、今回は大統領によるタフト・ハートレー法（80日間冷却期間を置くためストをやめさせる）発動の見込みはないようである。（7月12日現在）

一方、米国東海岸の港湾関係者で組織されている I L A も船主団体の N Y S A などと新協定の契約について交渉を行っているが、契約切れになる 9月30日までに交渉がまとまる見込みはほとんどなく、I L A のストは毎恒年例になっているので、スト突入は必至との見通しが強まっている。このため、わが国の貿易業界など荷主側は早くも北米東海岸向け貨物の船積み必死で、ほとんどの船が満船状態になっているという。

このような米国東西両海岸の港湾ストは、海運業界はもちろん、貿易関係産業に大きなショックを与えている。洋書業界においても今後着荷の遅れなど大きな影響を受けることは必至で、予め注文主の諒解を得る等対策が必要であるが、その対策の一つとして早期発注が考えられるが、ニューヨークの某社（H. M. Snyder 社）からの協会宛書信でも、10月からのストライキは必至であるので、クリスマス時期の注文は 9月前に船積みできるよう早期発注を要望している。

ニュース

- 英国 Thomas Nelson 社の Export Sales Manager, Mr. Eric F. Keartland 6月下旬来日。
- 西独 Sauer & Auvermann KG. の Mr. Detlev Auvermann 6月下旬来日。同氏は、German Antiquarian Booksellers' Assn. の President でもある。
- 米 Random House, Inc. の International Sales Manager, Mr. John Beauchamp 7月上旬来日。

お知らせ

外国郵便料金の改訂について

去る 7月1日より外国両郵便料金が改訂され、既に実施されていることはご承知の通りですが、外国から日本宛の料金も同時に改訂されており、その詳細について東京国際郵便局および郵政省郵務局国際課に照会いたしましたところ、まだ各国からの報告が届いておらず、明確には判明いたしません。一応値上げ率は 12.5% から 14% の間で行なわれているとことです。

後日詳細判明次第お知らせいたします。

— G. & C. Merriam Company —



From a wood-engraving by Rudolph Ruzicka

The present home of Merriam-Webster Dictionaries,
47 Federal Street, Springfield, Massachusetts.



Mr. David Replogle, President



Dr. H. Bosley Woolf, Editorial Director

Merriam Webster の辞書には、すべて月桂樹の飾りの中に N と W の文字が重なっているマークが記されている。Noah Webster 即ち、Webster 辞書の創始者の頭文字が使われていることはご存知の方も多いと思う。Noah Webster は1806年に始めて辞典を完成させ、その後次々に充実した辞典を編纂し、1843年歿後版權を Merriam 社に渡した。

Merriam 家は Massachusetts の Brookfield という村で、19世紀初め頃から印刷業と製本業を営んでいたが、1830年に至って Merriam 家の George と Charles という兄弟がSpringfield市で本格的な出版社を創設した。以来140年の歴史を誇り、Webster 辞典の出版社として世界中で最も著名な出版社の一つに数えられるようになった。

現在は従業員約100名、そのうち約半数が、Webster の各種辞典の業務を担当している。辞書の中で最も多く輸出されているのは Webster's Seventh New Collegiate Dictionary で、年間100万冊を海外に輸出しているとのこと、その数の大きさに驚かされるが、また従業員の数の少なさも驚嘆に値する。

社長は Mr. David R. Replogle, Editorial Director Dr. H. Bosley Woolf, Vice-President は Mr. Crawford Lincoln. そして海外輸出は Mr. William F. Keith, Overseas Sales Manager が担当している。

書籍・雑誌輸入統計について

大蔵省関税局業務課編、日本関税協会発行の外国貿易概況付録掲載の頭記統計の中、要点を抜萃して下記の一覧表としました。

本表は、税関に提出された輸入申告書等の諸報告書に記載された事項を資料として作製されていますが、少額貨物（輸入は7万2千円下の貨物）および郵便物による輸入は含まれていません。

昭和45年 書籍及び雑誌輸入額 892-1.
1~12月 892-2.

国 別	金 額 単位 US \$ 1,000	国 別	金 額 単位 US \$ 1,000
総 額	51,521		
ア メ リ カ	37,013	ノ ー ル ウ エ イ	11
イ ギ リ ス	8,986	琉 球	10
イ タ リ ア	1,294	イ ス ラ エ ル	8
ド イ ツ 連 邦	1,083	ブ ル ガ リ ア	8
フ ラ ン ス	947	マ レ ー シ ア	7
ス イ ス	501	イ ラ ン	6
オ ラ ン ダ	344	パ キ ス タ ン	5
香 港	163	ベ ト ナ ム 共 和 国	5
中 華 民 国	144	ア ルゼ ン チ ン	4
カ ナ ダ	102	タ ン ザ ニ ア	4
大 韓 民 国	85	メ キ シ コ	3
ス ペ イ ン	48	ア ラ ブ 連 合	3
オ ー ス ト ラ リ ア	45	ギ リ シ ア	2
ニ ュ ー ジ ー ラ ン ド	38	南 ア フ リ カ	2
ベ ル ギ ー	36	タ イ	2
デ ン マ ー ク	32	シ ン ガ ポ ー ル	2
ポ ル ト ガ ル	28	イ ン ド ネ シ ア	2
ソ 連	15	サ ウ ジ ア ラ ビ ア	1
フ イ リ ピ ン	14	ク ウ エ イ ト	1
イ ン ド	13	チ リ	1
ス エ ー デ ン	13	ブ ラ ジ ル	1
キ ュ ー バ	12		

地 域 分 類

ア ジ ア 州	472	大 洋 州	83
ヨ ー ロ ッ パ 州	13,812	共 進 地 域	50,638
北 米 州	37,130	E E C	3,704
南 米 州	12	E F T A	9,580
ア フ リ カ 州	12	発 展 途 上 地 域	510
東 南 ア ジ ア	456	中 近 東	18
ラ テ ン ア メ リ カ	28	ア フ リ カ	8
共 産 圏	373	東 欧	358

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

㈱ 原 書 店 ☎ 811-6091

Échanges et Communications.

Mélanges offerts à Claude Lévi-Strauss
à l'occasion de son 60^{ème} anniversaire,
réunis par Jean Pouillon et Pierre Maranda
(Mouton, The Hague) ¥37,800

㈱ 医学書院 洋書部 ☎ 814-5931-5

Adams, J. C.: Outline of Orthopaedics.
7th ed. 480 pp. 380 figs. 1971 8月入荷予定
(E. & S. Livingstone, Edinburgh) ¥2,430

Beck, K.: Color Atlas of Laparoscopy.
206 pp. 385 figs. 1970
(F. K. Schattauer Verlag, Stuttgart) ¥14,720

Gillis, L.: Diagnosis in Orthopaedics.
312 pp. 124 figs. 1969
(Butterworth & Co., London) ¥7,020

Leighton, R. S.: Neuroradiologic Anatomy;
A Stereoscopic Atlas.
340 pp. 186 figs. 22 stereoscopic reels & a
view-master, 1971
(The Williams & Wilkins Co., Baltimore) ¥23,000

Progress in Neuropathology. Vol. 1. (by
Zimmerman, H. M.)
320 pp. with figs. 1971 近刊
(Grune & Stratton, Inc., New York) ¥9,600

Schade, J. P. & Ford, D. H.: Basic Neurology
and Function of the Nervous System; An
Introduction to the Structure. 2nd ed.
250 pp. 250 figs. 1971 近刊
(Elsevier Publishing Co., Amsterdam) ¥5,100

なお、未入荷のものにつきましては価格等が変更になる
ことがあります。ご諒承ください。

㈱ イタリア 書 房 ☎ 262-1656

Aguilar S. A. de Ediciones. Madrid, Spain

Ediciones Atlas. Madrid, Spain

の出版物及び同社が総販売代理権を有する。

Las Reales Academia Espanolas y de la Historia,
Instituto de Espana,
Biblioteca Nacional
Archivo Histórico Nacional の出版物。

㈱ 紀伊國屋書店 ☎ 354-0313

Books, selected title.

Oceana Pub. U. S. A.
American International Law Cases.
Compiled and edited by F. Deak,
8~10 Vols. 1970~ 各巻 ¥20,000

㈱ 極 東 書 店 ☎ 265-7531

Dietz Verlag Berlin

All publications

Verlag Neue Kritik KG. Frankfurt am Main
Die Internationale. Zeitschrift für Praxis und
Theorie des Marxismus. Jahrgang I, 1915 -
Jahrgang XV, 1932. 12 Bände. Insgesamt 10,150
S. Nachdruck 1971-1972. Subskr.-Preis ¥34,500

Verlag Detlev Auverman KG. Glashütten in Taunus
Blanqui, Adolphe Jérôme, Geschichte der
politischen Oekonomie in Europa von dem
Alterthume an bis auf unsere Tage. Uebersetz
und mit Anmerkungen versehen von F. J. Buss.
Karlsruhe 1840-1841. 2 Bände XVI. 335; VII, 642 S.
Nachdruck 1971. ¥20,120

Festschrift für Carl Grünberg zum 70. Geburtstag.
Leipzig 1932. 560 S. Nachdruck 1971. ¥10,350

Hallische Jahrbücher für deutsche Wissenschaft
und Kunst. Hrsg. von Arnold Ruge und Theodor
Echtermeyer. Jahrgang 1-6, Heft 1-24. Leipzig
1838-28. Januar 1843. Nachdruck 1971. Mit einer
Einführung von I. Pepperle ca. 60 S. und
ca. 10,000 S. Text. ¥207,000

Die Internationale. Zentralorgan der Unabhän-
gigen Sozialdemokratischen Partei Deutschlands.
Redaktion: Curt Geyer und Bernhard
Düwell. Nr. 1, 27. Oktober 1920 - Nr. 60, 31.
Dezember 1920. Verlag Die Internationale,

Berlin. Nachdruck in Vorbereitung. Zeitungsformat (336 S.) Subskr.-Preis ¥28,700

Jahrbuch für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik.
Hrsg. von Ludwig Richter. Jahrgang I (in 2 Hälften), 1879 - Jahrgang II, 1881. Verlag von Ferdinand Körber, Zürich-Oberstrass. 1,170 S. in 3 Bänden. Nachdruck in Vorbereitung.
Subskr.-Preis ¥25,300

Karl Marx. Chronik seines Lebens in Einzeldaten.
Zusammengestellt vom Marx-Engels-Lenin-Institut in Moskau. Marx-Engels-Verlag Moskau 1934. 464 S. Nachdruck 1971. ¥10,350

Zentral-Antiquariat der DDR, Leipzig
Der Geächtete. Organ des Bundes der Geächteten.
Hrsg. von Jakob Venedy. Paris 1834-1836.
2 Bände. Nachdruck in Vorbereitung. unbestimmt
Die Verbrüderung. Correspondenzblatt aller deutschen Arbeiter. Hrsg. vom Centralkomitee für die deutschen Arbeiter/Arbeiterverbrüderung.
Redaktion: Stefan Bom und Schwenninger.
Jahrgang 1-3. Leipzig 3. Oktober 1848 29. Juni 1850. Nachdruck in Vorbereitung. unbestimmt

日本洋書販売配給㈱ ☎ 208 0181

FONTANA PAPERBACKS (Wm. Collins Sons & Co., Ltd.)

PURNELL/BANCROFT

㈱ ト ヅ バ ン ☎ 833-2111

CLASSICAL SCIENTIFIC PAPERS
(Mills and Boon Ltd., London)

Chemistry 1st series. edited by D. M. Knight
¥4,050

Chemistry 2nd series. edited by D. M. Knight
¥5,400

Physics. edited by S. Wright ¥4,050

Psychology 未 刊

Astronomy 未 刊

このシリーズは近代科学に偉大な貢献をした科学者がその当時に発表した歴史的な論文を複製し収録編集した貴重な研究書であります。9月初旬入荷予定です。

正 誤 表

Vol. 5. No. 6. 12頁の

Books for Asia (Japan) Limited の内 Hutchinson Mifflin Co. は Houghton Mifflin Co. の誤りにつきお詫び少々ご訂正願います。

会 員 の 横 顔

富士洋書㈱

小林 圭五



今年は梅雨の明けるのが早く、炎熱と車の排気ガスが充満する昭和通りから、富士洋書さんの冷房のきいた満洒なオフィスに足を踏み入れた時は、正直云ってホッとした。

今月御紹介する小林さんは昭和3年朝鮮は元山の生れ。祖父の時代から朝鮮に在住されていたというから、彼は三世ということになる。だからもし敗戦ということがなかったら、彼は今頃内地のダンナとして羽振りをきかせ、妓生でも侍らせながらカルビ焼か何かを喰べているのではないかと想像するのだが、これをしも帝国主義的妄想というのかも知れない。

中学卒業の年、敗戦により命からがら内地に引揚げ学生生活を終ると横浜の船会社に勤務して通関・輸出業務に従事、それも数年で健康を害し、4年にわたる療養生活、と昭和一ケタの何%かがたどった苦難の道を歩んでいる。

34年に富士洋書を設立。創始期にはカタログサービスなどもやったが、相手方の会社が少々インチキで苦い思いをしたりもした。現在は工業デザインや土木工学関係書を専門に取扱い、協会では価格査定委員会に所属している。

旅行が趣味で、ゴルフも少々たしなまれる。それに昼寝——と云いかけて口を閉じられたので、今や昼寝は貴重な趣味の一つに数えてよいのではなからうか、というような話になる。(インタビューをしていて、一番話に身が入るのは、大抵こういうあまり真面目ならざる話の時で、これは取材記者がマジメでない所為かも知れない。)奥様とお嬢さん一人の三人家族。

通関問題等に関連して協会への意見等も伺ったが、これは又機会を見て御紹介することにしたい。

(自宅：埼玉県草加市松原4-403)



PUBLISHERS

ANGUS & ROBERTSON 社

ARCHITECTURE

新刊御案内

※ **444 SYDNEY BUILDINGS** 8月刊行

7 $\frac{3}{8}$ × 5 $\frac{1}{2}$ 128 pp. 200 以上写真収録

The Royal Australian Institutes of Architects 編 定1,100

※ **THE MAKING of A PROFESSION** 8月刊行

9 $\frac{1}{2}$ × 6 $\frac{1}{4}$, 304 pp., 20pp. black and-white photo-

graphs. \$10.00 retail, publication August, 1971 定5,000

A History of the Growth and Work of the
Architectural Institutes in Australia

OTHER TITLES

PLANNING AND PEOPLE

James Colman

9 × 6, 70 pp., \$3.50

THE FUTURE CANBERRA

National Capital Development Commission

11 $\frac{1}{4}$ × 8 $\frac{3}{4}$, 128 pp., \$6.95

A GUIDE TO CANBERRA BUILDINGS

J. R. Conner

6 × 8 $\frac{1}{4}$, 64 pp., \$1.35

THE EARLY AUSTRALIAN ARCHITECTS

AND THEIR WORK (Rev. Edn)

Morton Herman

10 × 7 $\frac{1}{2}$, 264 pp., \$12.50

THE BLACKETS

Morton Herman

10 × 7 $\frac{1}{2}$, 224 pp., \$8.40

CIVIL ENGINEERING CONSTRUCTION

J. M. Antill & P. W. S. Ryan

9 $\frac{1}{2}$ × 6 $\frac{1}{4}$, 632 pp., \$16.50

CIVIL ENGINEERING MANAGEMENT

J. M. Antill

9 $\frac{1}{2}$ × 6 $\frac{1}{4}$, 336 pp., \$10.50

DESIGN OF REINFORCED CONCRETE

Henry J. Cowan & P. Smith

9 $\frac{1}{2}$ × 6 $\frac{1}{4}$, 548 pp., \$16.00

DESIGN OF PRESTRESSED CONCRETE

Henry J. Cowan & P. Smith

9 $\frac{1}{2}$ × 6 $\frac{1}{4}$, 212 pp., \$10.75

**AUSTRALIAN SANITARY ENGINEERING
PRACTICE**

H. Y. Randerson

9 $\frac{1}{2}$ × 6 $\frac{1}{4}$, 476 pp., \$7.50

**AUSTRALIAN METHODS OF BUILDING
CONSTRUCTION**

W. Watson Sharp

8 $\frac{3}{4}$ × 5 $\frac{3}{4}$, 420 pp., \$5.00

**CONCRETE TECHNOLOGY AND
PRACTICE**

W. H. Taylor

9 × 5 $\frac{1}{2}$, 668 pp., \$10.00

LIVING PLACE AND LIVING SPACE

W. Stephenson

9 × 6, 128 pp., \$1.95

PLACES FOR LIVING

W. Stephenson

9 × 6, 128 pp., \$1.95

POVERTY IN AUSTRALIA

A. I. P. S.

8 $\frac{1}{2}$ × 5 $\frac{1}{2}$, 172 pp., \$2.25

THE AGED IN AUSTRALIAN SOCIETY

An ANZAAS BOOK

Sidney Sax (ED.)

8 $\frac{1}{2}$ × 5 $\frac{1}{2}$, 136 pp., \$1.50

**AUSTRALIAN TIMBER HANDBOOK
(3rd Edition)**

N. K. Wallis

9 $\frac{1}{2}$ × 6 $\frac{1}{4}$, 380 pp., \$6.75

カタログその他の御要望は下記へお願い致します。

日本総代理店 **中央洋書株式会社**

電話・東京 (294) 5151 (代表)

■ 第1巻入荷！

東独を中心に世界の知識をコンパクト

新マイヤース卓上百科 全2巻

MEYERS NEUES HANDLEXIKON

in zwei Bänden

見出し項目30,000／図版3,000／サイズ167×240mm／1,192頁

VEB Bibliographisches Institut, 1971

定価 セット ￥9,660

第2巻近刊（各巻￥4,830）

本辞典は、ドイツで広く愛用されてきた「マイヤース小辞典」(Meyers Taschenlexikon A-Z)を基礎に、内容をまったく一新、充実させた最新の小百科辞典です。現代社会主義社会が達成したあらゆる分野の知識と情報に最大の力点を置いて厳選された約30,000の見出し項目は、現代史の最新の事件、社会主義社会制度の創造、ドイツ民主主義共和国の科学技術革命の現況をはじめ、科学と文化のあらたな認識と事象を簡潔に伝えています。もちろん、社会主義社会以外の世界の知識についても多くの事項を扱い、新しい世界観に立って解説しています。知識の理解を助ける生命ともいえる挿図も、本辞典では5色刷りの美しいカラー図版を含めて約3,000図にのぼり、この種の小百科としては十二分の配慮といえます。ドイツ語文化圏を中心に、現代社会主義社会と世界の知識をコンパクトしたこの「新マイヤース卓上百科」を、簡便な、身近な手引きとして、知識を求めるあらゆる層の人々にお勧め致します。ドイツ語、ドイツ文学研究者をはじめ、あらゆる大学図書館、研究室はぜひお備え下さい。

■ 絶賛発売中！

ソ連科学技術情報収集の最新兵器・10万語収録

パーガモン版 露英科学技術用語辞典 全2巻

RUSSIAN-ENGLISH SCIENTIFIC AND TECHNICAL
DICTIONARY

Two volumes By M.H.T. & V.L. Alford

《Pergamon Press》 1970 定価セット ￥12,960

日本総代理店

ナウカ (株)

東京都豊島区南池袋2-30-19
TEL (03) 981-5261(代) 〒171

昭和46年7月 通巻第51号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重
☎ 103 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901
☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329